

こんにちは♪ 今日23日は「本の日」で～す！（「子ども読書の日」でもありません。）みなさん知っていましたか？ 知らなかったでしょ？ 日本ではまだまだ定着していないみたいです。もともとこの日は、スペイン・カタルーニャ地方の聖人サン・ジョルディの日として祝われていたのですが、世界文学の最高峰・シェイクスピアとセルバンテスの命日でもあることから、愛するひとに本と花（薔薇！）を贈る日となりました。

さて、図書館でもこの日を祝福したいと思います。本日、**イベントをします！**

名づけて「**図書館には、何羽うさぎがいるでしょう？**」クイズ！

図書館に何羽うさぎがいるかを数えて、みごと正解すると豪華賞品がもらえます！ みんなどしどし参加してね！ 「簡単そう」だと思ったら、おおまちがい！ ムチャクチャ多いです。ちょっと信じられないくらい。うさぎだからすごい勢いで増えるんです。正解したときには、驚愕の事実が…w。ぜひ、ふるって参加してください！

『spring』 恩田 陸

ピアノコンクールの頂上決戦を描き、史上初の直木賞&本屋大賞をW受賞した『**蜜蜂と遠雷**』から七年半！ 今作のテーマはバレエ！ バレエが、「今まで描いた主人公のなかで、これほど萌えたのは初めてです」と恩田さんが明言してるほど魅力的な主人公をもって描かれます！ よろずはる 萬春。無二の舞踏家で、自ら斬新な振付も行う。「HAL」と綴るのは、名前の由来が映画『2001年宇宙の旅』で宇宙船で人間と敵対するコンピューターの名前だから。名前の意味を尋ねられた彼は、英語で「ten thousand spring」と答えた。一万もの春を持っている男。8歳で川べりをくるくる回りながら歩いていて「回りすぎた」ところを、偶然通りがかったクラシックバレエの指導者の目に止まり、「踊る人」だと確信した彼女に1からバレエを教えられた。ドイツの名門のバレエ学校のワークショップに参加すれば、その中性的な美しさと独特の雰囲気と図抜けたテクニックでたちまち注目され、「自由に踊って」という課題には「作品」になるような振付で応えてみせる。彼がいつも周りを見て考え込んでいるように見えるのは、「この世のカタチ」を見ているのだそう。王子様役にうってつけな生徒が学校から参加したときには、なんと『眠れる森の美女』のオーロラ姫を踊って、「ザ・王子」に手を取って踊らせた。そして、15歳で彼は海を渡り、その学校へと留学することになる。さあ、語り草になるのはこれからだ…。

☆『四月になれば彼女は』 川村元氣

『君の名は。』の名プロデューサーが書いた小説が、佐藤健、長澤まさみ、森七菜主演で映画化され、大ヒット！ テーマはずばり、「なぜ人は恋をするのだろうか」。弥生との結婚식을1年後に控えているのだが、それを他人事のように感じてしまっている藤代のもとに、大学時代につきあっていたハルから9年ぶりに突然手紙が届く。それは、ボリビアのウユニの天空の鏡と呼ばれる湖で書かれ、そこでの出来事とともにあの頃の想いが綴られていた。「あのときのわたしには、自分よりも大切な人がいた。あなたと一緒にいるだけで、きっとすべてがうまくいくと信じることができた」。ハルとは大学の写真部で出会い、お互いが初めて本気で好きになった人になった。ところがある事件が原因となり、顔を合わせることができなくなって、そのまま会うことすらできずにいまに至っているのだった。なぜハルはいまになって手紙を書いてきたのだろうか？ プラハ、レイキャビク、旅先から手紙は送られ続けるが…。誰かのことを心から愛している、と思えるのは一瞬。永遠にその思いが続くことはない。なのに、なぜ人は愛するのか？ その問いに果敢に挑んだ傑作！ 『わたしの愛』と『あなたの愛』が等しく重なっていたときは、ほんの一瞬。避けがたく今日の愛から、明日の愛へと変わっていく。けれども、その一瞬を共有できたふたりだけが、愛が変わっていくことに寄り添っていけるのだとわたしは思う」。

『定食屋「雑」』 原田ひ香

『三千円の使い方』でブレイクしたひ香さんのほっこりと美味しそうな最新刊！ 「週に二、三回あそこに行って、ご飯を食べ、お酒を飲むのだけが楽しみなんだよ。疲れがとれて、ほっとするんだ」。「俺の楽しみを奪わないでくれ、頼む」。夫のためにきちんとした料理を作っているという自負があった沙也加は、夕食を家で食べない夫が定食屋「雑」で飲んだり食べたりしていたからだと気づき、夫にここまで言われて家を出て行かれてしまい心をずだずだに引き裂かれる。夫はどんなお店で「癒やされて」いたのか。沙也加は実際に夫の行きつけの「雑」に行ってみることにした。そこは浮気の匂いとはまったく無縁な、七十代の小さな樽のような体型のメガネの女性がひとりで運営しているお店だった。では、ものすごく料理が美味しいのか？ 安い。生姜焼き定食と肉じゃがを頼んでみると、甘くて食べられたものではなかった。夫は本当に、あの店のあんな料理が好きだったのだろうか？ それとも別な何かに理由が？ 夫の真意を探るため、沙也加はこの定食屋でアルバイトをすることに…。

『52ヘルツのクジラたち』 町田そのこ

「52 ヘルツのクジラとは、他のクジラが聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ。たくさんの仲間がいるはずなのに何も届かない、何も届けられない。そのため、世界で一番孤独だと言われている」。読書感想文もたくさん書かれた本屋大賞受賞作が映画化！「もう、誰とも関わり合いたくない」。そう願って東京のマンションを引き払い、誰にも連絡せず大分の祖母がひとりで暮らしていた民家へと移り住んできた貴瑚。彼女の母は再婚してできた弟を溺愛し、彼女のことを邪魔者扱いして、母親のことが大好きだったのに愛されずに育った。そして、高3のときに義父がALS（筋萎縮性側索硬化症）を患い、卒業後も寝たきり生活となる彼の介護に明け暮れることになってしまう。懸命の介護にもかかわらず認知症も併発した義父にショックを受けた母親に「あのひとじゃなく、こいつが病気になればよかった。こいつが死ねばいいのに」とまで言われた貴瑚は壊れてしまう。そんな彼女を救ったのがアンさんだった…。ひとりで暮らす貴瑚のところに、中学生くらいの女の子がやってくる。しゃべれない彼女は実は男の子で、母親から虐待されて全身痣だらけだった。「この子からは、自分と同じ匂いがする」。少年は52ヘルツのクジラの声聴いて泣いていた。「わたしも、昔52ヘルツの声をあげてた。それは長い間誰にも届かなかったけど、たったひとり、受けとめてくれるひとがいたんだよ」。貴瑚は、仲間のところへ彼を連れて行ってあげようとする。貴瑚がかつてそうしてもらったように。

『坂上に咲く』 原田マハ

「その男≪棟方志功≫ いちまいの板 一本の彫刻刀で 世界に打って出た。こんな男、ほかにいない」（著者）。アート小説のパイオニアで、本校でも先生方に熱烈なファンを持つ原田マハさん。待望の3年ぶりの長編アート小説である最新作で描かれるのは、棟方志功です！青森の貧乏青年だったムナカタは、十七歳でゴッホの〈ひまわり〉を目にした瞬間、「我はゴッホになるッ！」と覚醒した。ゴッホに恋い焦がれ、一流の画家になるために裸一貫で上京したムナカタだったが、絵を教えてくれる師も、画材を買うお金もない。看板屋、納豆売り、靴直し、なんでもやった。貧苦に喘ぎ、帝展に落ち続けても、挫折せずに己の道貫けたのは、ムナカタを愛し、信じ、全身全霊で支えてくれた妻・チヤがいたからだった。「辛かった。でも、幸せでした——」。弱視の彼は、木版画に活路を見いだす。「板画」が世界を変える。世界のムナカタの誕生日前夜を描きます。

『よだかの片想い』 島本理生

「^{そこ}損なわれた女の子」を書いて本校でも大人気の島本さんの傑作が松井玲奈主演で映画化され、好評につき同キャストでTVドラマ化！同じく2022年に映画公開された『わたし達はおとな』『そばかす』もTVドラマにリメイクされるのだそう。「生まれつきのものを可哀想だと言うのなら、私は一生否定されることになってしまう」。顔に大きなアザがあり、注目されないよう注意深く生きてきたアイコは、「顔にアザのある人の本」のインタビューを受け、その本の表紙のモデルとなった。本は大評判となり、人気絶頂の女優主演で映画化されることに。その流れで出会った映画監督・飛坂は、表紙の写真が大好きだったと言う。「あんなに真っすぐ強い目ができる人は、そうそういないから。きっとすごく芯が通っていて、がんばっている人なんだって」。その言葉を聞いて、アイコは不覚にも泣いてしまう。そして、彼の昔の作品を見て、思い通りにならない現実に置き去りにされている女の子の気持ちを彼が拾い上げてくれていることに感動し、飛坂のことを好きになる。初めての恋だった…。

…このほかにも、
アニメも大人気！ 待望の最新作！
『薬屋のひとりごと 15』、
昨年度のラノベランキング制覇作品！
**『お隣の天使様にいつの間にか
駄目人間にされていた件 9』**、
『わたしの幸せな結婚 8』、
『キングダム 71』、
『税金で買った本 10』、
『ゆるキャン△ 16』
などなどなど！

…図書館には、たくさんの**ライトノベルとマンガ**もあります！
なにがあるのかは、図書館で！（**JOJO**とか**文スト**とか**追悼ドラゴンボール**とか）

————— 図書館のたくさんの「ゆめかわいらしいものたち」は、せーやさんが買って集めたのではなく、「ぼくも仲間に入れてくださいな」と集まってきて、こんなにも増えたのです。みんな友だちだよ♪ では、図書館で。

